

結果の要約

1 職業

群馬県の15歳以上就業者数(1,015,579人)を職業大分類別にみると、「生産工程・労務作業員」が349,513人(15歳以上就業者数の34.4%)と最も多く、次いで「事務従事者」が175,687人(同17.3%)、「販売従事者」が127,892人(同12.6%)などとなっている。平成12年と比べると、「サービス職業従事者」が10,077人(11.4%)増、「保安職業従事者」が1,071人(9.6%)増などとなっている。一方、「管理的職業従事者」が4,616人(17.6%)減、「農林漁業作業員」が5,263人(7.4%)減などとなっている。

職業4部門別割合は、「生産・運輸関係職業」が37.7%と最も高く、次いで「事務・技術・管理関係職業」が31.6%、「販売・サービス関係職業」が23.5%、「農林漁業関係職業」が6.5%となっている。平成12年と比べると、「販売・サービス関係職業」、「事務・技術・管理関係職業」がそれぞれ1.2ポイント、0.3ポイント上昇しているのに対し、「生産・運輸関係職業」、「農林漁業関係職業」がそれぞれ1.4ポイント、0.3ポイント低下している。

「事務・技術・管理関係職業」	= 「専門的・技術的職業従事者」 + 「管理的職業従事者」 + 「事務従事者」
「生産・運輸関係職業」	= 「運輸・通信従事者」 + 「生産工程・労務作業員」
「販売・サービス関係職業」	= 「販売従事者」 + 「サービス職業従事者」 + 「保安職業従事者」
「農林漁業関係職業」	= 「農林漁業作業員」

2 就業時間

15歳以上就業者の平均週間就業時間は40.9時間で、職業大分類別にみると、「運輸・通信従事者」が49.2時間と最も長く、次いで「保安職業従事者」が45.2時間、「管理的職業従事者」が44.8時間などとなっている。平成12年と比べると、すべての職業大分類で減少となっている。特に、「サービス職業従事者」が2.1時間減、「販売従事者」が1.9時間減となっている。

3 夫婦の労働力状態、職業

夫婦の労働力状態をみると、夫と妻ともに就業者である夫婦が243,659組(夫婦数513,196組の47.5%)と最も多く、次いで夫が就業者で妻が就業者以外である夫婦が153,824組(同30.0%)などとなっている。また、夫と妻ともに就業者である夫婦の職業をみると、夫と妻ともに「生産工程・労務作業員」である夫婦が37,214組(夫と妻ともに就業者である夫婦数の15.3%)と最も多く、次いで夫が「生産工程・労務作業員」、妻が「事務従事者」である夫婦が22,909組(同9.4%)などとなっている。

4 従業・通学時の世帯の状況

従業・通学時の世帯の状況をみると、「通勤・通学者のみの世帯」は211,170世帯(住宅に住む一般世帯711,803世帯の29.7%)となっている。一方、通勤・通学者以外の世帯員がいる世帯は500,633世帯(同70.3%)で、このうち通勤・通学者以外の世帯員が65歳以上の「高齢者のみ」の世帯が168,987世帯(同23.7%)、「女性のみ」の世帯が92,700世帯(同13.0%)、「幼児と女性のみ」の世帯が42,180世帯(同5.9%)となっている。

図1 群馬県の職業（大分類）別就業者数（平成12年，17年）

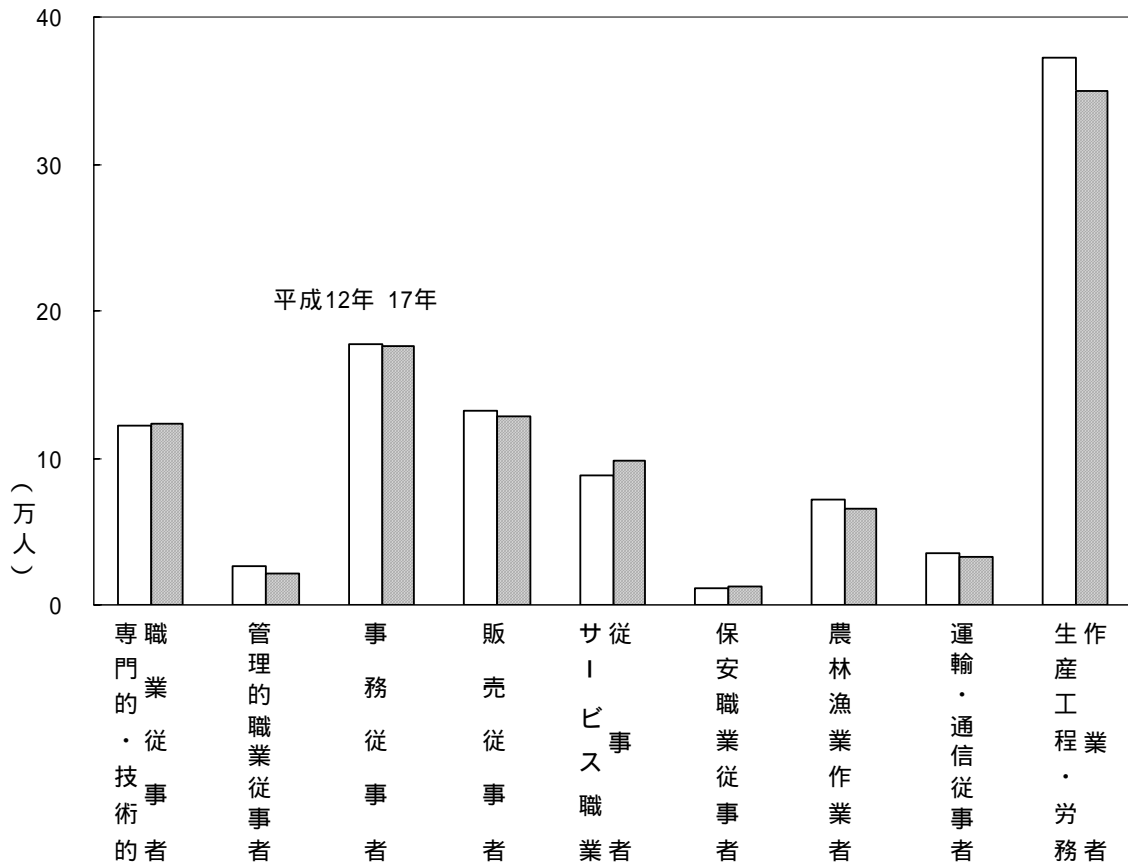


図2 群馬県の職業（4部門）別割合の推移（昭和55年～平成17年）

